

社会文化システム研究科の教育目標及び3つのポリシーについて

【教育目標】

山形大学大学院の教育目標を踏まえ、社会文化システム研究科では、文化現象や社会現象の今日的な課題に積極的に取り組み、分析し、解決できる能力を持った人材の養成を目標としています。

【修了認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)】

山形大学大学院の修了認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)のもと、社会文化システム研究科では、以下のような知識・態度・能力を獲得した学生に「修士」の学位を授与します。

1. 専門基礎能力

高度で専門的な研究を展開するうえで必要となる幅広く深い知識と考え方を、正確かつ体系的に理解し身につけている。

2. 研究遂行能力

人文・社会科学の専門領域における今日的課題に対し、自らの問題意識に基づいて、独力で研究を遂行することができる能力を有している。

3. 専門応用能力

社会と文化を一つのシステムとして総合的に把握しつつ、現代社会が抱える多様な諸課題を解決できるように専門的な知識を活用・応用していく能力を有している。

4. 社会への発信と貢献

専門領域において他者と積極的に意見を交換することを通じて、自らの研究成果を社会一般に発信する能力を獲得し、現代の知識基盤社会を多様に支える職業人としての資質を備えている。

【教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)】

山形大学大学院の教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)に沿って、社会文化システム研究科では、組織的な教育・研究指導體制を編成し、学生が将来への見通しを持って研究に専念できる環境を提供します。そのうえで、成績評価基準に基づき厳格な評価を行います。

1 教育課程の編成・実施等

- (1) 高度な専門職従事者・地域リーダーとしての知識と技能を体得するために体系的に構成されたカリキュラムを編成する。

(2) 学生自身の問題意識を踏まえ、研究課題の設定・推進・解明というプロセスを着実に進めることができるよう適切な助言・指導を行う。

2 教育方法

(1) 自ら課題を発見して、解決に向けて探求し、成果を表現する能力を培うため、協働による参加型、対話型の学生主体の授業を展開する。

(2) 生涯を通じて主体的に学び続ける動機づけとなるような、多様で学際的な知識と技能が身につく教育を展開する。

3 教育評価

(1) 学習成果の評価においては、不断の教育課程の点検・学生からの評価を組織的に行い、到達度を確認できる明確な成績評価基準を策定する。

(2) 人文科学研究に資する知識と技能、さらには主体的・自律的に学問に取り組む姿勢を評価する。

【入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)】

社会文化システム研究科は、広範な基礎学力と高度な専門性に基づいて社会と文化を一つのシステムとして総合的に把握し、文化現象や社会現象の今日的課題に積極的に取り組み、分析し、解決できる能力を持った人材を育成するため、様々な視点や広い視野を獲得して課題解決に積極的に応えていく意欲のある人を、国内外から広く受け入れます。

また、社会文化システム研究科の求める学生像は以下のとおりです。

◆求める学生像

- ・ 様々な社会・文化現象を一つの総合的なシステムのうちに位置づけ、それらの関連性を理解し、現実的に問題を解決したいという意欲と能力を有している人
- ・ 今日の地域社会や国際社会の抱える政策諸課題に対し、積極的に取り組み解決しようとする意欲と能力を有している人

以上のような観点から各専攻では、次のような学生を求めています。

修士課程

(文化システム専攻)

文化システム専攻では、人間の認知行動や世界の多様な文化現象を総合的な

システムとして研究することを目的としています。

また、文化システム専攻の求める学生像は以下のとおりです。

◆求める学生像

- 言語学、心理学、歴史学、文化人類学、哲学、文学など、人文科学の専門分野に関する基礎学力を有している人
- 人間の思考・行動過程のメカニズムや世界の多様な文化現象に対して、旺盛な探究心を持つ人
- 自分が身につけた専門的知識を、現代社会の文化的諸課題の解決に役立てたいと考えている人

◆入学者選抜の基本方針

上記の【求める学生像】で示す能力等を有する人を多面的・総合的に評価するため、以下の方法により選抜します。

- (1) 一般入試（筆記試験（専門科目）、面接、出願書類を総合して判定）
- (2) 社会人入試（口述試験、出願書類を総合して判定）
- (3) 外国人留学生入試（A方式：筆記試験（専門科目）、面接、出願書類を総合して判定。B方式：筆記試験（日本語）、口述試験、出願書類を総合して判定）
- (4) 推薦入試（面接、志望理由書、研究計画書、推薦書等の出願書類を総合して判定）
- (5) 協定校（外国人留学生）推薦入試（日本語能力認定書（N1）、志望理由書、研究計画書、推薦書等の出願書類を総合して判定）

(社会システム専攻)

社会システム専攻では、自治体と企業及び国際社会という3つの社会システムに焦点を当て、政策諸課題を研究することを目的としています。

また、社会システム専攻の求める学生像は以下のとおりです。

◆求める学生像

- 法学、政治学、経済学、経営学、社会学、地理学など、社会科学の専門分野に関する基礎学力を有している人
- 今日の多様な社会現象に対して、旺盛な探究心を持つ人
- 自分が身につけた専門的知識を、地域社会や国際社会の抱える諸課題の解決に役立てたいと考えている人

◆入学者選抜の基本方針

上記の【求める学生像】で示す能力等を有する人を多面的・総合的に評価するため、以下の方法により選抜します。

- (1) 一般入試（筆記試験（専門科目）、面接、出願書類を総合して判定）
- (2) 社会人入試（口述試験、出願書類を総合して判定）
- (3) 外国人留学生入試（A方式：筆記試験（専門科目）、面接、出願書類を総合して判定。B方式：口述試験、出願書類を総合して判定）
- (4) 推薦入試（面接、志望理由書、研究計画書、推薦書等の出願書類を総合して判定）
- (5) 協定校（外国人留学生）推薦入試（日本語能力認定書（N1）、志望理由書、研究計画書、推薦書等の出願書類を総合して判定）